

おはようございます。また、新年おめでとうございます。今年もよろしく願います。昨年の一月一日には、能登半島地震、一月二日には、羽田空港の滑走路で日本航空機と海上保安庁の航空機が衝突する事故もありましたが、今年は、やや穏やかな年の初めを迎えました。

皆さんは、どんな冬休みだったでしょうか？

まずここで、海洋高校生の善行について紹介します。

「十二月二十二日（日）、団体バスが栗田駅に到着した際、お客さんの中に駅前のロータリー付近で体調を崩して、倒れた方が居られたそうであります。そこに居合わせた海洋高校の生徒が、心肺蘇生の手助けをしてくれた。栗田駅は休日のため、AEDが取り出せなかったところ、海洋高校に、AEDを取りに行こうとしてももらっていたようであります。関係の方から、感謝の気持ちを、どうしても校長先生に伝えたい。」との連絡でした。

生徒の名前は、二年一組 山中 悠雅さんと二年二組 小原 瑛冬さんです。

お電話をいただいた時、大変うれしい気持ちになりました。日頃から、人の見ていないところでも、誰にも気づかれなくても、そんな行動をしてもらっていることも思います。ありがとうございます。

また、他の皆さんも、率先して人の役に立てる行動をしてもらえると、たいへんありがたいです。

さて、「一年の計は元旦にあり」という言葉を皆さんは聞いたことがあるでしょうか。

これは、中国の明代（日本では室町時代）に憑慶 京ひょうけい きやうという学者によって著された書物

「月令広義」が語源とされています。この使われ方は、元旦だけを大切にするのではなく、初めに計画を立てることで、日々の充実度が決まり、勤勉に働くことで一生が決まり、健康維持によって一家の行く末が決まるという意味から来ています。

即ち、「一年の計は元旦にあり」では、年の初めである元旦に、一年の計画をしっかりと立てることが大切であるという意味で使われています。

皆さんは北口 榛花選手を知っていると思います。女子陸上競技のやり投を種目とする選手で、昨年夏のパリオリンピック 陸上女子やり投げで金メダルを獲得されています。

北口選手は、令和七年の目標として、「二大目標は世界陸上競技選手権（九月に東京で開催）二連覇と、アジア記録（六十七メートル九八）更新だ。」と、全国民に向け宣言されています。まさに、「一年の計は元旦にあり」の意味どおりに、目標を明確にされています。皆さんも、例えば、「目標とする資格や検定を取る」「進路を決める」「部活動で予選を突破する・優勝する」「成績を〇〇まで伸ばす。」などなど、是非この一月初めの時期に、一年の目標を立ててみてください。

また、年が二千二十五年となつて、辰年から巳年になりました。干支の動物ではへびの年です。みなさんは、「へび」と言ったらどんな印象を持っているでしょうか？

中でも、脱皮を繰り返し成長するへびは、再生を意味する象徴である。即ち、過去の失敗も新たな成長へと変える、新しいことに挑戦するのに絶好の年とも言われています。

皆さん一人一人にとって、二千二十五年が良い年となるよう、ともかく精一杯がんばりましょう！

令和六年度最後の学期である三学期が始まりました。三年生は、来月二月二十八日には卒業式を迎えます。高校生活はあともう二カ月もありません。三学年そろった式もこれが最後です。三年生の皆さんには、卒業を目前にする時期、就職して社会に巣立ったり、上級学校という新天地での活躍をしたりするための大切な助走期間でもあります。残り少ない高校生活を、学年末考査、そして卒業に向けて目いっぱいがんばってほしいと思います。

一・二年生の皆さんも、進級を前にする、まとめ・締めくくりの学年、成績が定まる重要な学期です。

この時期冬場は、風邪やインフルエンザ等にも罹りやすい時期でもあります。どうか、体調管理も大切なことと認識して、令和七年の順調なスタートをきってもらうとともに、できるだけ学校を休むことなく、よい形で令和六年度の締めくくりの学期とできるよう、切にお願いしておきます。

令和七年一月八日

校長 上林 秋男 以上です。